（記録）

地域コミュニティ・シンポジウム　～考えよう！　地域のちからの大切さ～

日時　26 年 3 月 8 日（土）　14 時～16 時 15 分
場所　西東京市民会館 3 階　大会議室

出席者・参加者
　市協働コミュニティ課 浜名課長、 同課係長 江藤（シンポジウム全体の進行役）、
　市内自治会の人、防犯協会会長、ふれまちの人、など
　総数 約 40 人位

（1）西東京市地域コミュニティ基本方針について

浜名課長から説明。
説明に入る前に、客席に向かって「どこから来たのか？」とかなり執拗に訊ねていた。
　└→ 3 人の人が、自治会です、防犯協会です、などと回答した。
資料として、「西東京市地域コミュニティ基本方針 概要版 平成 25 年 3 月」が配布されていたが、説明はこれに拠らず、別途用意された PPT で行なわれた。

説明内容
・地域が抱える課題に対して地域の底力が発揮できる地域コミュニティの再構築を目指す。
・現在 160 の自治会・町内会がある。
・若い人が減って 65 歳以上の高齢者が増加中。 単身高齢者が 10 人に 1 人。
・60%の世帯がマンションなど共同住宅に住む。 核家族化。
・市内は人の出入りが激しい。年間 1 万人の転入・転出がある。
・自治会・町内会への未加入者は 25%
・地元に根ざす自治会・町内会が一番の要め。
・自治会・町内会への参加意識を高め、活動の活発化を図り、頑張ってもらわないといけない。
・基本方針　①地域コミュニティにかかわる全ての組織の活動を充実させる
　　②自治会・町内会を充実させる → 市民は近所で繋がりを持つ
　　③地域コミュニティにかかわる組織・団体を連携させる → 災害時の課題解決
　　→ 市・警察署・消防署を含めた仕組みづくり
・南部地域をモデルに地域協議体の構築を検討・推進。
　自治体・町内会を中心に各組織・学校・企業・行政機関が連携した新組織体「地域協議体」を構築して地域課題（防犯・防災・高齢者支援・子どもの見守りなど）の解決に取り組む。
・昨年作った計画に沿って進めて行く。みんなの協力がないとできない。

（2）先進事例の紹介　調布市の事例

♠「地区協議会の設立・運営支援」… 調布市生活文化スポーツ部
協働推進課主事 福岡

・地区協議体とは、小学校区をコミュにティ・エリアとして地域で活動する各種団体や地域住民が連携・協力し、地域のまちづくりのために自主的に活動するネットワーク組織。
　地域の連帯感の向上、地域活動の相乗効果の期待、地域の課題解決、地域の人材発掘、市の活動支援が狙い。

・小学校区に分ける意味は、子どもと住民の距離が近いこと、その関係性を高めること、関係する協議体の中でも小学校は市との距離が近いことによる。
・地域の不審者対策　一つでは無理で出来ない。 単独では出来ない。
・防犯、防災、交通安全は繋がりをもって実施しないといけない。単一マンションだけではなく広域に繋がって実施。
・現在、調布市では 14 の小学校区で地区協議会が出来ている。早期に 20 全部の小学校区で地区協議体が出来ることを目指している。
・西東京市は 4 つの地域に分けているが、府中市は学校区ごとに分けている。
西東京市のふれまち活動に近い形態。両方とも目指すところは同じくネットワーク作り。

♥調布市　地区協議会「上ノ原まちづくりの会」　…　会長　吉見政子
・調布市の施策に基づき平成 16 年 4 月設立
・地域住民の「ふれあい」とより良い「まつづくり」を目指す
・設立動機　…　子どもに対する不幸は事件（誘拐）が発生したことがあり、このようなことが今後起きないようにしたいという思いから設立。生徒と住民の距離を縮めることが目的。
・環境美化、防犯・防災・交通安全
・ふれあい交流（コンサートなど開催）、地域への行事協力（運動会・盆おどりなど）、広報活動
・市からオブザーバーとして一人参加
・目配り・気配り　…　会員が例えばジョギングするときなどにはユニフォームのジャンパーを着て走ってもらうなどして、これで十分に防災に効果がある。
・防災訓練を行なっている。
・他の地区協議体との情報交換やイベントなどは市が主催して行なわれている。
・生徒との距離を縮めるために具体的には、小学校でお昼前の授業の一部、時間をもらって絵手紙などの作り方などを教えたりして、生徒と地区担当者が触れ合う時間を持っている。

・組織　　役員・運営委員は 20 名

会長
├事務局
├会計監査

副会長	副会長	副会長	副会長
（防犯・防災・交通安全）	（環境美化）	（ふれあい交流）	（広報）
運営委員数名	運営委員数名	運営委員数名	運営委員数名

広報誌は年に 2 回発行　　発行部数　6000 部

（3）市民から見た地域コミュニティ（座談会）
～多世代が安心・安全に暮らせる地域を目指して～

座談会のパネラーの話の内容　（パネラー別に発言内容の要旨をメモ）

◆西東京市消防署 警防課 地域防災担当　　係長　伊藤　圭（コーディネーター）
・西東京市は 20 万人都市であるが消防車は 6 台、救急車は 3 台があるのみ。
・そのため、市民の防災意識を高め、防災訓練に取り組んでいる。これが警防課の仕事だ。
・災害のときは連絡を取りあえる仕組みが必要だ。
・近所のお年寄り。パパ友、ママ友のネットワーク。人と人の繋がりがないとだめ。災害時の一時

子どもを預かる、預けられる、という信頼関係が出来ないと安心できない。
・パネラーの皆さんの話はほんとうに熱い。
・高齢者も若い人も繋がることだ大事だ。
・南部地域はいろいろな分野の人が集まって繋がるモデル地域となる。
・南部地域のみならず、行政も動き始めたので、このいいムードで全市で協議会つくりを進めたい。課題・問題点、このままで大丈夫かという意識をもって取り組んで行きたい。

◆町内会「向栄会」（向台）　　会長　室 靖治

・1961 年発足。 125 世帯が参加。
・災害時には小学校毎に避難所が設けられるが、そのときの準備の手伝いや避難訓練を続けている。防災活動を通じて市民が繋がるということを目指している。
・立場の異なる人々が繋がるのはこのような訓練と考えている。
・個人が繋がりを作ることは難しい。そこには行政の仲介が必要だ。
・役員になることを辞退する人が多いが、むしろ、役員を軽く引き受けられるように役員の負担を軽くすることを考えないといけないと思う。
・近所の繋がりは声かけから。
・会員は高齢化、役員へのなり手がいない。そのため行き詰まり感がある。
・この間は大雪で雪かきをみんなで行なった。積雪も災害だ。高齢者にとっては重大な災害。

◆西東京防犯協会　　会長　丸山儀一

・丸山会長は元市職員。今後も会長を続けて子どもの安全に関わって行く積もりだという。
・防犯協会　現在の会員数 170 人　旧田無には 20 人、旧保谷には 150 人、弱点だ。
・誰でも入れるわけではない。入会にあたっては審査する。
・終戦後の荒れた日本を立て直しのための自警団がルーツ。
・市内の犯罪件数は平成 14 年はH285 万件、平成 25 年は 138 万件、10 年で半分に減少。
・西東京は平和で安全でいい町だという人がいるが、こう云う人にはいつも怒る。不審者はどこに潜んでいるかわからないのだから。もっと真剣に真面目に考えろと。
・安全連絡会　小学校区域ごとに 19 の会を作っている。学校とタイアップして、子どもを守るために、子どもを犠牲にしないために、意見交換を行なっている。
・ふれまちと一緒に防犯活動をしている。子どもを守るのは町の人だ。
・帽子・腕章・グリーンのユニフォームを着用して巡回するだけで、不審者対策になっているのだ。
・自助・公助・共助、というが、災害が発生して公助ができるまでには 3 日かかると考えるべき。その間は共助だ。近所の力だ。
・災害発生時、市の職員に市役所に集まれといっても集まれない。遠くに住んでいる人が多い。所沢から先でないと高くて土地が買えない時代だから。（← これは不用意発言か？）
・3・11 の大地震のときはちょうど下校時、子どもは電柱につかまったり…、その時の様子の話。
・顔見知りになっても、子どもは卒業したら離れて行く。
・私は子ども怒る。挨拶をしない子どもやポケットに手を入れて歩いている子どもを見たときなどは厳しく怒っている。
・保護者は子どもの卒業と共に役員を辞めてしまう。（市民みんなで守らないといけないのに。）
・高齢化が進む。若手を何とかして会員にしたい。
・駅の周辺の繁華街に防犯カメラを設置する計画を立てている。ひばりが丘駅前に 7 台、田無東商店街に 10 台設置した。設置しただけで防犯効果がある。
・住んでよかった、と思える町づくりに貢献したい。

◆保育園保護者連絡協議会　　会長　加藤聡

・保護者会の連携組織

・16 保育園が加盟している。
・親から見た改善要望を受けて保育の環境整備を目指している。
・子どもたちのために考える会だ。

◆コミュニティ・サロン　仙人の家　　店主　竹中美重子

・仙人の家はオープンしてから今年で 3 年目になる。
・長野から戻ってきて今後の暮らしを主人と一緒に考えた結果で、主人も老人問題に取り組んでいたこともあり、コミュニティ・サロンを開設した。
・開設に当たっては多くの人に助けてもらった。辛抱が肝心といわれて頑張ってきた。お陰でお客さんが増えてきた。自助よりも共助でやってきた気がする。
・昨年は市からの講師派遣をお願いして高齢者健康講座を開催するなど、単に集まってきて話をするだけではなく、手芸・ものづくり、健康麻雀、音楽鑑賞会などを企画して行っている。
・今年は社協の支援を頂いて、家庭で介護に携わる人たちのためにケアラーズ・カフェを開きたいと計画している。介護している人たちは苦しんでいる。向こう 10 年で大変なことになると思う。そのような地域の方に寛いでもらいためのサロンを月に 2 回くらい開きたい。
・コミュニティ・サロンには、出てこれない人、出てこない人を何とかサロンに連れてきたい。
・みんな他人には無関心だが、しかし、自分のことに関わりのありそうなことには情報を求める。
・井戸端会議みたいに近所で噂になるようなことは、この噂を逆手にとって見守りに使いたい。
・自分も色んな人に助けられてきた。
・一人一人の力を集めてやる。　話し合えば、そうだとわかる。　それならやろうよと進む。
・些細な話から行動開始。
・みんなで補い合ってやっていきたい。

◆明星大学教育学部 2 年　　学生　小野修平

・町の自治会活動に小 4 で参加した。芋掘りだったが、そのときの感激が今に繋がる。
・今は小学校低学年リーダーとして町のイベント、どんと焼などの実行委員をしている。
・消防署での活動にも参加し、地域の消防団の方に指導してもらっている。
ボーイスカウトの消防活動みたいなもののリーダーをしている。
・たちかわで小学生相手に防災教室を学生仲間と開催している。学校やPTAの人たちではなく、大学生が子どもたちに教える。
・こうして防災のまちづくり、子育てまちづくりを目指している。
・少年消防団を作って行きたい。
・高齢者から子どもまで、多世代間交流によって組織の縦を繋ぎたい。そして、横の繋がり、色んな組織の連携を図っていきたい。そのようなことを目指している。

◎**武蔵野大学の三浦先生**（？）が浜名課長に指名されて本日のシンポジウムについて予定外の感想を述べた。

・ムチャ振りされて戸惑う。
・みなさん、地道に活動されていることがよくわかった。
・このような活動には時間がかかるが、子どもたちのためにいい町を作っていこうと思う。

以上